



ペントアップ需要って？

◆買い控え一転、消費拡大／インフレの引き金にも

Q－ペントアップ需要って難しそうな言葉だなあ。どんな意味なの？

A－ペントアップ（pent-up）は「閉じ込められた」「抑圧」「うっ積」を意味する英語です。控えていた消費が、景気の好転などをきっかけに一気に活発になる現象で「繰越需要」とも呼ばれます。



アクリル板越しに食事を楽しむ来店客
＝11月、富山市内の飲食店

Q－具体的にはどんな時に起きるのかな？

A－我慢していた購買意欲が急激に高まるペントアップ需要の発生には、さまざまな要因があります。例えば、新型コロナウイルスの新規感染が落ち着くことによつて、世界で急激なペントアップ需要が発生するのではないかとされています。国内でも10万円の特別定額給付金や、消費の抑制によつて約20兆円以上の「消費待機資金」があるとされ、これがペントアップ需要の原資になると見られます。過去には、2011年の東日本大震災をきっかけに一気に落ち込んだ旅行消費が、約3年後に急回復した例もありました。

Q－県内経済にはどんな影響がありますか？

A－宇奈月温泉に代表される県内の観光関連業者や、宿泊・外食産業にはとつては明るい材料であることに違いありません。これらは、息の長い景気押し上げ効果になるとみられています。このほか、住宅や自動車、家電といった耐久消費財の販売にもペントアップ需要は波及します。半導体不足や木材・鉄・原油など資源価格の上昇の背景には、アフターコロナを見据えたペントアップ需要が背景にあります。

Q－良いことばかりですね。

A－景気が良くなるのは確かにいいことですが、世界規模で一斉にペントアップ需要が起これると厄介なことになります。需要が大きすぎるためモノやサービスの値段がぐんぐん上がる「インフレ」を起こしやすくなるのです。一方で、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」が欧州など各地で広がり、11月30日には国内でも確認されました。政府は観光支援事業「GO TO トラベル」の再開など経済対策を予定していますが、さまざまなリスクを考慮して取り組む必要があるようです。

（北陸経済研究所の藤沢和弘が解説しました。）